

実績報告書

届出者	住所	兵庫県加古郡稲美町中一色883番地	氏名	株式会社神戸物産 代表取締役社長 沼田 博和
特定事業者の主たる業種		58飲食料品小売業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		主に食料品の販売を行っており、2017年3月末時点で全国で757店舗出店し、内、大阪府内では84店舗の出店を行っている。		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1) 計画期間	
平成 26 年 4 月 1 日～	平成 29 年 3 月 31 日 (3年間)

(2) 前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度(25)年度	前年度(28)年度
温室効果ガス総排出量	20,921 t-CO ₂	24,007 t-CO ₂
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	24,582 t-CO ₂	28,316 t-CO ₂
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量	0 t-CO ₂	

(3) 温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (28 年度)	第1年度 (26 年度)	第2年度 (27 年度)	第3年度 (28 年度)
選択	レ	0 %	0 %	0 %	0 %
	レ	3 %	0.5 %	12.6 %	4.8 %
削減率(平準化補正ベース)		— %	0.4 %	12.4 %	4.5 %
吸収量による削減率		0 %	0 %	0 %	0 %

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値	(業務面積×営業時間)
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

(4) 温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理)

<p>新規店舗参入等により、各オーナー各店舗の電力に対する意識も高まる中、例年通りエアコン・照明・冷ケース等を適正に使用が出来るようマニュアル更新を行い周知に努めました結果、各店舗への温室効果ガス削減への意識づけに伴った削減行動(主に省エネ電球・冷ケースの周期的なメンテナンスによる電力使用効率向上・エアコン・室温の省エネ設定等)がみられるようになりました。本年度の削減率はその成果だと考えさらに推進して参ります。</p>

◎ 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策

(1) 推進体制

今後は、店舗の経年劣化による設備の見直しを推進する中で、一部または全部改装等が増えるかと予測しております。その際省エネ設備化・省エネ設備の導入を推進し、温室効果ガス削減を進めてまいります。

(2) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱 の区分	事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	GHG排出	全ての店舗	コード (0)	マニュアルに沿った取り組み、節電意識を継続。 各店舗への案内及び各店舗担当SVに指導内容共有及び指導	26年度 ～ 28年度
	人工排熱				
	平準化				
2	GHG排出	全ての店舗	コード (0)	空調機器の設定温度の見直し。 各店舗への案内及び各店舗担当SVに指導内容共有及び指導	26年度 ～ 28年度
	人工排熱				
	平準化				
3	GHG排出	全ての店舗	コード (0)	必要時以外、電源OFF。もしくは、省エネモード。(照明) 各店舗への案内及び各店舗担当SVに指導内容共有及び指導	26年度 ～ 28年度
	人工排熱				
	平準化				
4	GHG排出	全ての店舗	コード (0)	必要時以外、電源OFF。もしくは、省エネモード。(パソコン、コンセント) 各店舗への案内及び各店舗担当SVに指導内容共有及び指導	26年度 ～ 28年度
	人工排熱				
	平準化				
5	GHG排出	全ての店舗	コード (0)	冷ケースにおける、営業時間外のナイトカバー使用の徹底。 各店舗への案内及び各店舗担当SVに指導内容共有及び指導	26年度 ～ 28年度
	人工排熱				
	平準化				
6	GHG排出	全ての店舗	コード (0)	暖房便座の電源OFF。もしくは温度を上げ過ぎないようにする。 各店舗への案内及び各店舗担当SVに指導内容共有及び指導	26年度 ～ 28年度
	人工排熱				
	平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱 の区分	事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	GHG排出		コード		年度 ～ 年度
	人工排熱				

(3) その他の抑制対策

実績報告書

届出者	住所	大阪市東淀川区東淡路5-8-38	氏名	株式会社国際興業大阪 代表取締役 山本 康夫
特定事業者の主たる業種		43道路旅客運送業		
該当する特定事業者の要件			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		主に、タクシー事業で淡路営業所250台・我孫子営業所149台・茨木営業所36台・摂津営業所20台で合計455台で旅客運送事業を行っております		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1) 計画期間	
平成 26 年 4 月 1 日～	平成 29 年 3 月 31 日 (3年間)

(2) 前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度(25)年度	前年度(28)年度
温室効果ガス総排出量	9,121 t-CO ₂	12,830 t-CO ₂
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	9,178 t-CO ₂	12,848 t-CO ₂
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量	0 t-CO ₂	

(3) 温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (28 年度)	第1年度 (26 年度)	第2年度 (27 年度)	第3年度 (28 年度)
選択	レ	削減率(排出量ベース)	5 %	11.2 %	8.3 %
		削減率(原単位ベース)	0 %	0 %	0 %
削減率(平準化補正ベース)		— %	0 %	8.4 %	-40 %
吸収量による削減率		0 %	0 %	0 %	0 %

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値 ()	
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

(4) 温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理)

<p>営業車の日常点検及び、法定点検でタイヤの空気圧を基準値調整する事で、燃費の悪化や、事故防止につとめてまいります。全営業社員に休憩時、待機時間が長い場合アイドリングストップ実施を継続。</p>	
--	--

◎ 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策

(1) 推進体制

従来のエコドライブ実施及びアイドリングストップの徹底指導に加え、23年度より夏季の冷房の使用量削減の為、屋外窓際にグリーンカーテンの設置を実施。

(2) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱 の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ	GHG排出	淡路営業所	コード (1113) 空気調和設備 の運用改善	冷暖房の温度設定を最適に行えるよう運 転制御・管理システムを運用する。	26 年度 ～ 28 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
2	レ	GHG排出	全ての営業 所	コード (1218) 証明設備の導 入	省エネ効果の高い証明設備 (LED照明) に更新する。	26 年度 ～ 28 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
3	レ	GHG排出	淡路営業所	コード (1122) 空間の間仕切 り	昼休み・夜間・休日等は、事務系と営業 系とで区割りする。	26 年度 ～ 28 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
4	レ	GHG排出	淡路営業所	コード (4999) グリーンカー テンの設置	夏季の冷房使用削減の為外部窓際にグ リーンカーテンを設置。	26 年度 ～ 28 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱 の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ	GHG排出	全ての営業 所	コード (2121) 低燃費車の導 入	車両の更新時には、アイドリングスト ップ装置装着車や、低燃費車を積極的に導 入していく。	26 年度 ～ 28 年度
	レ	人工排熱				
2	レ	GHG排出	全ての営業 所	コード (2123) 燃料タンク満 タン規制 (7 0%)	全営業所のタクシー全車でエコドライブ を実施する。	26 年度 ～ 28 年度
	レ	人工排熱				
3	レ	GHG排出	全ての営業 所	コード (2213) アイドリング ストップ装置 による効果	代替車をアイドリングストップ装置設置 車輛に	26 年度 ～ 28 年度
	レ	人工排熱				
4	レ	GHG排出	全ての営業 所	コード (2226) タイヤ空気圧 調査	日常点検時のタイヤの空気圧の点検・調 査の徹底実施。	26 年度 ～ 28 年度
	レ	人工排熱				

(3) その他の抑制対策

従来のエコドライブ実施及びアイドリングストップの徹底指導に加え、23年度より夏季の冷房の使用量削減の為、屋外窓際にグリーンカーテンの設置を実施。

実績報告書

届出者	住所	大阪市淀川区宮原1丁目6番10号	氏名	株式会社互恵会 代表取締役 佐藤 文平
特定事業者の主たる業種		83医療業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		ベッド300床の入院病棟・診察病棟などを有する総合病院		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1) 計画期間	
平成 26 年 4 月 1 日～	平成 29 年 3 月 31 日 (3年間)

(2) 前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度(25)年度	前年度(28)年度
温室効果ガス総排出量	3,478 t-CO ₂	3,240 t-CO ₂
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	3,616 t-CO ₂	3,369 t-CO ₂
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量		0 t-CO ₂

(3) 温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (28 年度)	第1年度 (26 年度)	第2年度 (27 年度)	第3年度 (28 年度)
選択	レ	削減率(排出量ベース)	3 %	6.4 %	9.3 %
		削減率(原単位ベース)	0 %	0 %	0 %
削減率(平準化補正ベース)		— %	6.4 %	9.2 %	6.9 %
吸収量による削減率		0 %	0 %	0 %	0 %

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値 ()	
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

(4) 温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理)

<p>夏場の外気の影響や病院の稼働率の影響もあるが、以前より継続的に行っている省エネ活動に加え、病院全体での省エネに取り組むことで、個人の意識が高まり全体的な温室効果ガスの削減に繋がっている。</p>
--

◎ 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策

(1) 推進体制

エネルギー使用に関するデータを共有、平年と比較し現状改善を検討する会議を開催。また平年と比べエネルギー使用量が著しく増大している場所・機器等が有れば原因を調べ改善を図れる体制をとっている。

(2) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス(GHG)の排出及び人工排熱の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール(年度)
	GHG排出	人工排熱				
1	レ	GHG排出	大阪回生病院	コード(1113) 空調機の運用改善	吸収式冷温水機の冷温水送り温度の最適化 中間期等の外気冷房の積極導入 省エネ運転マニュアルの作成	26年度 ～ 0年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
2	レ	GHG排出	大阪回生病院	コード(1123) 排熱温回収率向上	吸収式冷温水機(ジェネソク)の燃焼割合、燃焼停止及び冷媒ポンプ停止の制御システムを変更し、通年先発運転を可能にし排熱温水の回収率を向上させる。	26年度 ～ 0年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
3	レ	GHG排出	大阪回生病院	コード(5112) 照明の間引き	病棟階の廊下の照明の間引き、外来診察階の間接照明の間引き及び駐車場照明の間引きを実施。	26年度 ～ 0年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
4	レ	GHG排出	大阪回生病院	コード(1112) BEMS導入	BEMSを導入しエネルギー使用のデータ管理を実施。	17年度 ～ 0年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
5	レ	GHG排出	大阪回生病院	コード(5231) デマンド制御装置導入	デマンド制御を実施し、適切な設備機器の運転管理を実施。	17年度 ～ 0年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス(GHG)の排出及び人工排熱の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール(年度)
	GHG排出	人工排熱				
1		GHG排出		コード		年度 ～ 年度
		人工排熱				

(3) その他の抑制対策

実績報告書

届出者	住所	大阪府枚方市春日北町1-40-1	氏名	寿ダイカスト工業(株) 代表取締役 佐伯 幸一
特定事業者の主たる業種		23非鉄金属製造業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		主にダイカスト製品の製造を行っている。		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1) 計画期間	
平成 26 年 4 月 1 日～	平成 29 年 3 月 31 日 (3年間)

(2) 前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度(25)年度	前年度(28)年度
温室効果ガス総排出量	5,806 t-CO ₂	5,915 t-CO ₂
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	6,183 t-CO ₂	6,285 t-CO ₂
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量		0 t-CO ₂

(3) 温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (28 年度)	第1年度 (26 年度)	第2年度 (27 年度)	第3年度 (28 年度)
選択	削減率(排出量ベース)	0 %	0 %	0 %	0 %
	レ 削減率(原単位ベース)	3 %	-1.2 %	-6.8 %	-2 %
削減率(平準化補正ベース)		— %	-0.8 %	-6.2 %	-1.7 %
吸収量による削減率		0 %	0 %	0 %	0 %

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値	(アルミ生産量)
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

(4) 温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理

<p>前年度に比べて受注増でありCO2排出量自体は増加傾向にあります。原単位ベースでは、(基準年度と比べて)「アルミ使用量」は基準年度と同程度ですが、工場の稼働状況(良品の生産状況、人的配置によるマシン可動状況等)が効率的でなかったと言えます。ソフト面を中心に省エネ活動を実施していますが、残念ながら目標は未達です。引き続き可能な限り、省エネ(CO2削減)に努めてまいりたいと考えております。</p>	
--	--

◎ 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策

(1) 推進体制

効率的な生産体制を強化する中で、省エネ活動とともに地球温暖化防止活動に取り組みます。

(2) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱 の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
	GHG排出	人工排熱				
1	レ	GHG排出	寿ダイカスト工業	コード (1113) 空気調和設備 の運転管理	本社事務所内のエアコン設定温度を夏季 28℃、冬季20℃にして運転すること。	26 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
2	レ	GHG排出	寿ダイカスト工業	コード (1218)	工場内、必要以上の蛍光灯・水銀灯の点 灯を避け節電に努める。	26 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
3	レ	GHG排出	寿ダイカスト工業	コード (1216) 空気調和設備 の更新	空調設備の更新時には、省エネ化を図る	26 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
4	レ	GHG排出	寿ダイカスト工業	コード (1112) 電気・ガスの 使用量管理	電気とガスの使用量をチェックし把握す る。	26 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
5	レ	GHG排出	寿ダイカスト工業	コード (1215) 電気使用設備 の省エネ化	ダイカストマシン更新時に、標準モー ターポンプからサーボモーターポンプ (省エネ)タイプに切替	26 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
6	レ	GHG排出	寿ダイカスト工業	コード (1211) 燃焼設備の省 エネ化	AL連続溶解保持炉更新時に、標準燃焼 バーナー仕様から熱交換器搭載型燃焼 バーナーへ切替	26 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱 の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
	GHG排出	人工排熱				
1	レ	GHG排出	寿ダイカスト工業(株)	コード (2113) 外出時の対策	エコドライブと効率的な運行を行う。	26 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				

(3) その他の抑制対策

実績報告書

届出者	住所	東京都品川区東品川4-10-1	氏名	株式会社コナミスポーツクラブ 代表取締役社長 落合 昭
特定事業者の主たる業種		80娯楽業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		フィットネスクラブ運営		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1) 計画期間	
平成 26 年 4 月 1 日～	平成 29 年 3 月 31 日 (3年間)

(2) 前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度(25)年度	前年度(28)年度
温室効果ガス総排出量	26,190 t-CO ₂	20,792 t-CO ₂
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	28,777 t-CO ₂	22,809 t-CO ₂
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量	0 t-CO ₂	

(3) 温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (28 年度)	第1年度 (26 年度)	第2年度 (27 年度)	第3年度 (28 年度)
選択	レ	削減率(排出量ベース)	3 %	10.4 %	17.4 %
		削減率(原単位ベース)	0 %	0 %	0 %
削減率(平準化補正ベース)		— %	11.1 %	17.3 %	20.8 %
吸収量による削減率		0 %	0 %	0 %	0 %

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値 ()	
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

(4) 温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理)

<p>全社的にエネルギーコスト削減＝温室効果ガス排出量削減に取り組んでおり、基準年度から大幅な削減を達成しています。設備投資では動力系統のインバーター制御システムを導入し、効果が出ています。それ以外でもWEBを使ったエネルギー監視などにより、こまめなオペレーションにて削減を行ってきたことが大きな成果に結びついています。</p>
--

◎ 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策

(1) 推進体制

社長 □ 計画管理責任者<エネルギー管理統括者> (執行役員) □ 計画推進責任者 (兼) 技術管理者<エネルギー企画推進者> (施設管理グループ 統括M) □ 【各施設】エネルギー管理統括 (施設管理グループ) / エネルギー企画推進者 (支店長)
--

(2) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱 の区分	事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ GHG排出	なかもず支店 光明池支店	コード (1216) 空調設備 の高効率機器 への更新	経年劣化空調を高効率の省エネ型空調設備に更新。 →■館内空調をEHPへ切替実施 (なかもず支店) 【2011年6月より実施】 →■館内空調をGHPへ切替実施 (光明池支店)	26 年度
	レ 人工排熱				28 年度
	レ 平準化				
2	レ GHG排出	各店	コード (1216) 空調設備 の運用改善	空調発停、室温管理を遠隔監視・管理を行い、無駄な冷暖房使用をカットする。 →■社内全事業所へ2012年12月より室内「ECO温度設定基準」および「管理表」による管理をスタート ※別途離型添付	26 年度
	レ 人工排熱				28 年度
	レ 平準化				
3	レ GHG排出	京橋支店	コード (1127) エネルギー監視 システムの導入	エネルギー監視システムを導入し、電気・ガスの使用量を削減する。 →■京橋支店【2011年4月より導入】	26 年度
	レ 人工排熱				28 年度
	レ 平準化				
4	レ GHG排出	大阪府内12支店	コード (1113) 電気デマンド 監視警報器の 設置	電気使用量リアルタイム表示、デマンド監視警報器設置し削減を図る。 →■大阪府内12支店へ導入済み (香里園・香里ヶ丘・守口・京橋・古川橋・寝屋川・南千里・東岸和田・和泉中央・堺・なかもず・茨木)	26 年度
	レ 人工排熱				28 年度
	レ 平準化				
5	レ GHG排出	大阪府内9支店	コード (1218) 省エネ型照明 の導入	省エネ効果の高い照明器具 (LED、無電極照明など) の導入。 →■大阪府内9支店へ導入済み (香里園・守口・香里ヶ丘・新石切・光明池・梅田茶屋町・グランサイズ大阪・北千里・弁天町)	26 年度
	レ 人工排熱				28 年度
	レ 平準化				
6	レ GHG排出	香里園支店 守口支店 東岸和田 香里ヶ丘 光明池	コード (1214) コージェネ レーション設 備の導入	マイクロ・コージェネレーション設備導入 →■香里園、守口【2006年導入】 →■東岸和田【2008年導入】 →■香里ヶ丘【2009年導入】 →■光明池【2011年導入】	26 年度
	レ 人工排熱				28 年度
	レ 平準化				
7	レ GHG排出	大阪府内11支店	コード (1215) ポンプイン バーター制 御装置の設置	ポンプインバーター制御装置の設置 →■大阪府内11支店に導入済み (古川橋・東岸和田・光明池・今里・和泉中央・北浜・和泉府中・茨木・高槻・北千里・弁天町)	26 年度
	レ 人工排熱				28 年度
	レ 平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱 の区分	事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ GHG排出		コード		年度
	レ 人工排熱				～
					年度

(3) その他の抑制対策
